

# ポルトガルとスペインの自然・産業・文化

15世紀後半から17世紀前半にかけての大航海時代に活躍したポルトガルとスペイン。両国の自然や産業、文化の今を見てきました。

ポルトガル南部に広がるコルクがしの林



ポルトの公園に立つエンリケ航海王子の像



コルクがし林で行われる樹皮の収穫作業

## 1 Coruche コルージュ 「コルク」の収穫と加工

世界一のコルク生産国ポルトガルの現場とは？

軽くて水を通さず、弾力性や断熱性に優れたコルクは、古くからワインの栓やピン留め用のボード、バドミントンのシャトルなど、身近なところで幅広く利用されています。その原料は、地中海性気候を好む高木常緑樹コルクがしの樹皮。世界のコルク生産量の第1位は、約50%を占めるポルトガル。スペインが約30%とそれに続きます。



▲集積場に集められた樹皮は、雨の少ない気候を生かし、半年間、天日干しで乾燥させます。



▲乾燥させた樹皮は、加工工場への出荷前に、大きな釜で煮沸します。カビ臭の原因となる有害物質の発生を抑え、加工しやすくするためです。



▲加工工場では、多くの工程でAIを使った品質管理が行われていますが、最後の選別は熟練した職人に任されています。ゆがみが少なく厚みがあり、穴や亀裂の少ないものが良いコルクとなります。



### Quiz コルクがしに書かれた数字は何を意味するのだろう？

コルクがしの樹皮は再生能力が高く、一度剥ぎ取っても、9年後には再び収穫できるまでに育ちます。コルクがしの幹に書かれた数字は、西暦の下1桁を表しており、再収穫時期の目安となるのです。



◀コルク栓の加工工場では、樹皮の裁断、くりぬぎ、検品などの工程を経て、見慣れたコルク栓が出来上がります。残った樹皮は、粉碎し、コルクボードや建材の材料として利用します。

▶軽くて肌触りもよいコルクは、靴やかばんにも加工されています。



『新詳高等地図』p.59より

ポルトガルのコルクがし林で働く人

### ポルトガル共和国の基本情報

首都はリスボン。9.2万km<sup>2</sup>の国土に1046万人の人が暮らしている。ユーラシア大陸の西端にあり、大西洋に面している。地中海性気候(Cs)に区分されるが気候の地域差は大きい。

### スペイン王国の基本情報

面積は50.6万km<sup>2</sup>で人口は4808万。首都はイベリア半島中央部の都市マドリッド。大部分を中央台地「メサ」に覆われた国土の平均標高は600m以上だ。



入り江が複雑に入り組むリアスバハスの海岸

## 2 Rias Baixas リアスバハス 大西洋に面する「リアスバハス海岸」

地形名称「リアス海岸」の由来となった土地に息づく暮らしとは？

谷に海水が深く浸入してできた入り江(スペイン語でリア)が連なる、スペイン北西部のリアスバハス海岸では、波静かな入り江の海面を利用して、ホタテ貝など魚介類の養殖が盛んです。



リアスバハスの入り江に浮かぶ養殖いかだ



### 「海の幸」豊かなポルトガル・スペインの食文化

ポルトガルやスペインでは、魚介類を豊富に使う食文化があります。写真(右)は、ポルトガル北部ポルトの市場。伝統料理でよく使われるたらははじめとする新鮮な魚が並んでいます。スペイン北西部のサンティアゴデコンポステーラでは、ホタテ貝の貝殻が巡礼者を導くシンボルとされ、今でも貝殻を身に付けて歩く巡礼者の姿が見られます。



## 3 Penedès ペネデス 「ぶどう」や「オリーブ」の栽培も盛ん

食用油やワインはどんな土地で生まれる？

スペイン東部バルセロナ近郊では、地中海性気候の下、乾燥した土地でよく育つぶどうやオリーブが広く栽培されています。ぶどうはワイン、オリーブは食用油の原料となります。写真の農園では、無農薬栽培や太陽光による自家発電など、地球環境に配慮した生産が行われています。



▲ポルトガルは、ヨーロッパ最大の米消費国です。8世紀にイベリア半島を支配した北西アフリカのムスリム(イスラム教徒)からもたらされた食文化が根付いたものといわれています。ポルトガルには一年中、一定の降水量がある西岸海洋性気候の地域もあり、そうした地域では稲作が行われています。

## 4 Barcelona バルセロナ 世界遺産「サグラダ・ファミリア」

2026年の完成に向けて工事は急ピッチ！

スペインのバルセロナ周辺には、ユネスコの世界文化遺産に登録された7つの建築物「ガウディ作品集」があります。その中で唯一未だ建築中であるサグラダ・ファミリアも、設計者アントニ・ガウディの没後100年にあたる2026年に完成すると発表されており、世界の注目を集めています。

### 変わりゆく「シエスタ」の習慣

夏の暑い時間帯を避け、数時間の昼休憩「シエスタ」を取るの、スペインの伝統でしたが、他のEU諸国との業務連携や国際的な大手チェーン店の進出などにより、この生活習慣は失われつつあります。



▶シエスタのため閉店準備する商店。



※2026年に写真右側に見える最大の尖塔「イエスの塔」(高さ172.5m)が完成することで、一応の完成となりますが、ファワードなどを含めた全体の完成は2034年ごろと見込まれています。